

# 中心市街地活性化 取組事例

《計画期間終了後も取組や効果測定を継続して行っている事例》

平成 29 年 3 月

内閣府地方創生推進事務局

# 計画期間終了後も取組や効果測定を継続している事例

市町村名	宮崎市(宮崎県)【平成19年5月28日認定】																		
計画期間	平成19年5月～平成25年3月																		
目標(指標) の達成状況	指標	基準値	目標値	評価値															
	歩行者通行量(人/日)	59,219	84,600	49,328															
	夜間人口(人)	7,575	8,025	8,619															
	昼間人口(人)	33,483	34,383	35,243															
取組概要	<p>【目標達成状況】</p> <p>目標指標として掲げる「歩行者通行量」「昼間人口」「夜間人口」のうち、「歩行者通行量」については目標を達成できなかったが、「昼間人口」および「夜間人口」は目標を達成している。宮崎駅西口に「複合交通センター」を整備したことで、交通結節点としての機能が向上するとともに、オフィスや商業店舗などが入居して新たな雇用の場が生まれたことや、周辺道路の電線類地中化や段差解消、緑化事業などによる居住環境の向上が奏功し、民間によるマンション建設・分譲が堅調となっている。</p>																		
	<p>【計画終了後の指標の推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行者通行量(人/日)</td> <td>54,188</td> <td>58,800</td> <td>53,131</td> <td>62,079</td> </tr> <tr> <td>夜間人口(人)</td> <td>8,799</td> <td>8,715</td> <td>8,938</td> <td>9,024</td> </tr> </tbody> </table>				指標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	歩行者通行量(人/日)	54,188	58,800	53,131	62,079	夜間人口(人)	8,799	8,715	8,938	9,024
	指標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度														
	歩行者通行量(人/日)	54,188	58,800	53,131	62,079														
	夜間人口(人)	8,799	8,715	8,938	9,024														
	<p>※歩行者通行量は、認定計画では休日のみ数字を採用していたが、現在は休日平日の平均値を使用。                  ※昼間人口は、経済センサスから算定しており、平成26年度の統計データを基に算出中。</p>																		
	<p>【中活計画に位置付けた事業の効果の継続性】</p> <p>平成25年度以降、任意計画として「中心市街地まちづくり推進プラン」を定め、みやざき国際ストリート音楽祭開催事業や市民等による植栽活動などのソフト事業を同プランに位置づけて継続的に実施している。その効果として、夜間人口は継続して増加しており、歩行者通行量についても増加傾向に転じるなど、中活計画に位置付けた事業の効果が継続している。</p>																		
	<p>【計画期間終了後の取組み及び指標の推移を受けた取組みの見直し】</p> <p>平成26年2月に学識経験者、事業者、民間シンクタンク、商工会議所職員などから構成される「宮崎しまちなかリノベーション研究会」を立ち上げ、改めて中心市街地の現状と課題を検討した。その結果、「社会経済情勢や宮崎市の中心市街地の特性(情報通信産業や業務機能の集積)を踏まえ、従来の商業振興から雇用拡大へ重点をシフトすべき」などの報告を受け、まちなかにクリエイティブ産業等(ICT関連産業等)をはじめとした3,000人の雇用創出を2024年までに目指す“マチナカ3000”プロジェクトに取り組んでいる。これにより中心市街地まちづくり推進プランの基本目標の1つである「就業機会の増加」を図るとともに、歩行者通行量の更なる増加を目指している。</p>																		
																			
	<p>〈国際ストリート音楽祭の様子〉</p>		<p>〈創業サポート室〉</p>																

## 計画期間終了後も取組や効果測定を継続して行っている事例

市町村名	新潟市(新潟県)【平成20年3月12日認定】				
計画期間	平成20年3月～平成25年3月				
目標(指標) の達成状況	指標	基準値	目標値(H24)	評価値	
	歩行者通行量	156,998人(H18)	174,000人	131,300人(H24)	
	まちなかの居住人口	16,295人(H19)	18,300人	18,607人(H24)	
	第3次産業従業者数	32,691人(H18)	33,700人	33,804人(H21)	
取組概要	【目標達成状況】				
	<p>中心市街地活性化に向けた各種取り組みが概ね予定通り行われたことにより、まちなかの居住人口や第3次産業従業者数は増え、この2つの指標は目標を達成した。しかし、居住人口や第3次産業従業者数の新たな増加分だけでは歩行者通行量の減少を抑えきれず、歩行者通行量は伸び悩んでいる。</p>				
	【計画終了後の指標の推移】				
	指標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	歩行者通行量	126,206人	141,275人	117,956人	120,170人
	まちなかの居住人口	18,843人	18,959人	19,206人	19,322人
	※第3次産業従業者数については、計画期間終了後2年後に公表される経済センサスのデータを集計する必要があり把握していない。				
	【中活計画に位置付けた事業の効果の継続性】				
	<p>基本計画終了時である平成25年3月に実施したまちづくり講座参加者へのアンケート調査結果によれば、中心市街地に暮らしてみたい(暮らし続けたい)と回答した方が過半数の50%を占めた。またその理由として「公共交通が使いやすく、どこに行くにも便利で、車なしに生活できる」(17%)が最も多かったが、平成27年9月より都心部において新たな交通システム(BRT)の導入が進み、公共交通の利便性が高まっていることに加え、計画期間終了後も民間マンションの建設が続いていることなどから、今後もまちなかの居住人口は増加していくものと考えられる。</p>				
	【計画期間終了後の取組み及び指標の推移を受けた取組みの見直し】				
<p>基本計画に位置づけていた「にいがた食の陣」などのイベントや商店街魅力向上事業、観光循環バス運行事業などのソフト事業は継続して実施している。計画期間終了後の平成25年度から萬代橋周辺地区都市再生整備計画に基づき、萬代橋周辺ならではの魅力を活かしたまちなか空間の創出を図っており、同年に新たな交流拠点となる新潟日報本社ビルや商業ビル「ラブラ2」がオープンしたこともあり、来街者の回遊性に変化が見られている。また平成27年度からは、古町周辺地区都市再生整備計画に基づき、古町地区5地点の歩行者通行量の増加を目指して事業を推進しており、今後とも中心市街地の活性化に向けた各種取り組みを進めることとしている。</p>					
					
古町7番町 イベント時		万代シティ イベント時			

## 計画期間終了後も取組や効果測定を継続している事例

市町村名	大村市(長崎県)【平成 21 年 12 月 7 日認定】												
計画期間	平成 21 年 12 月 ~ 平成 27 年 3 月												
目標(指標) の達成状況	指標	基準値(H20)	目標値(H26)	評価値(H26)									
	居住人口	2,788 人	2,910 人	3,278 人									
	歩行者通行量	7,835 人	8,120 人	10,355 人									
取組概要	<p><b>【目標達成状況】</b></p> <p>居住人口については、市営住宅整備に係る事業展開に併せ民間の宅地開発が活発化したこと、また再開発ビルにおける分譲マンション及び賃貸マンションの整備等が順調に進捗したことによって、目標を達成した。歩行者通行量は、平成 20 年度以降減少傾向にあったが、平成 24 年 11 月に再開発ビルの商業施設がオープンしたことで平成 25 年 3 月には 10,000 人を超えた。しかし平成 25 年 3 月に既存百貨店が閉店し、平成 26 年の調査では 5,000 人台へと再び減少していた。そこで商店街のL字型の形状を活かし、商店街の両端にイベント広場と多世代交流拠点(市民交流プラザ)を整備する 2 核 1 モール構想を着実に実施することで、利便性豊かな居住・交流空間を整備し、目標を達成した。</p>												
	<p><b>【計画終了後の指標の推移】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住人口</td> <td>3,324 人</td> <td>3,351 人</td> </tr> <tr> <td>歩行者通行量</td> <td>7,382 人</td> <td>9,691 人</td> </tr> </tbody> </table>				指標	平成 27 年度	平成 28 年度	居住人口	3,324 人	3,351 人	歩行者通行量	7,382 人	9,691 人
	指標	平成 27 年度	平成 28 年度										
	居住人口	3,324 人	3,351 人										
	歩行者通行量	7,382 人	9,691 人										
<p><b>【中活計画に位置付けた事業の効果の継続性】</b></p> <p>中活計画に基づく、老朽化した商業・住宅施設の再開発、商業施設等と一体となった利便性豊かな居住空間の整備や子育て支援拠点の整備により、中心市街地の移住人口が増加し、特に子育て世代の中心市街地への誘客が進み子育て世代から高齢者まで生き生きと暮らせるまちとして再生した。また、計画期間終了後に歩行者通行量は 7,382 人まで減少したが、空き店舗を活用したギャラリーや交流イベントの開催など、年間を通したイベントの実施により、市民が自主的に交流し賑わいづくりに参加する機運が高まったことで、平成 28 年には 9,691 人まで再び増加するとともに、商店街が活性化したことにより、空き店舗率も改善した。</p>													
<p><b>【計画期間終了後の取組み及び指標の推移を受けた取組みの見直し】</b></p> <p>住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らし、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供できる環境を整備するため、旧百貨店の建物を活用し医師会・薬剤師会等5者で地域包括ケアシステムの拠点を、「まちの保健室」として設置運営している。また、市民の暮らしの質の向上に向けて新たな図書館及び歴史資料館の整備等を進める等、大村市に住みたくなる街づくりに取り組む予定。</p>													
													

## 計画期間終了後も取組や効果測定を継続している事例

市町村名	敦賀市(福井県)【平成21年12月7日認定】												
計画期間	平成21年12月～平成27年3月												
目標(指標) の達成状況	指標	基準値(H20)	目標値(H26)	評価値(H26)									
	観光施設の年間入込客数	847,500 人	891,900 人	883,200 人									
	歩行者・自転車通行量(休日)	2,859 人/日	3,150 人/日	2,471 人/日									
取組概要	<p>【目標達成状況】</p> <p>観光施設の年間入込客数について、基準値は上回ったものの目標値には及ばなかった。しかしながら、平成24年3月に閉館した海とエネルギーの科学館「アクアトム」の来館者数が年間6万人であったことから、計画実施により当該減少分を一定程度補うことができた。</p> <p>また、歩行者・自転車通行量(休日)については基準値を下回った。その内訳を見ると調査ポイント3か所のうち、特に氣比神宮エリアと舟溜りエリアの値が低下している。</p>												
	<p>【計画終了後の指標の推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光施設の年間入込客数</td> <td>876,550 人</td> <td>938,593 人</td> </tr> <tr> <td>歩行者・自転車通行量(休日)</td> <td>2,654 人/日</td> <td>3,041 人/日(参考値)※</td> </tr> </tbody> </table>				指標	平成27年度	平成28年度	観光施設の年間入込客数	876,550 人	938,593 人	歩行者・自転車通行量(休日)	2,654 人/日	3,041 人/日(参考値)※
	指標	平成27年度	平成28年度										
	観光施設の年間入込客数	876,550 人	938,593 人										
	歩行者・自転車通行量(休日)	2,654 人/日	3,041 人/日(参考値)※										
	<p>※歩行者・自転車通行量は、通常10～11月に3回測定を行った平均値としているが、28年度は同時期にイベントが多く、これを避けたため2回の平均値となっている。</p>												
	<p>【中活計画に位置付けた事業の効果の継続性】</p> <p>計画認定をきっかけに、中心市街地エリア内の下位計画として平成24年5月に「金ヶ崎周辺整備構想」を策定。同構想に基づいて整備した「敦賀赤レンガ倉庫」が平成27年10月に供用開始されたことにより、市内を観光する日帰りバスが急増するとともに、氣比神宮等の周辺施設の入込客数が上昇し、平成28年度の観光施設の年間入込客数が目標値を上回るなど大きな波及効果が生まれた。なお、当該指標に「敦賀赤レンガ倉庫」の入込客数(H28:21万人)は含まれていない。</p>												
													
	<p>敦賀赤レンガ倉庫</p>												
	<p>【計画期間終了後の取組み及び指標の推移を受けた取組みの見直し】</p> <p>氣比神宮周辺と舟溜り地区の回遊ルート上の集客施設であった旧アクアトムが閉館してから、2つの指標が著しく低下したことから、敦賀市及び福井県の協働により日本原子力研究開発機構から同施設を譲り受け、市の所有となる1階部分を親子で楽しめる遊具を設置した施設として「キッズパークつるが」を整備し、平成29年3月に供用開始する予定。</p> <p>また、氣比神宮への参拝客を門前町である神楽町商店街へ誘導しようと、敦賀青年会議所が同商店街においてアートイベントを開催するなど、民間主体の新たなソフト事業が次々と生まれている。</p> <p>これらの取組等により歩行者・自転車通行量も、参考値ではあるが目標値に迫る勢いで増加しており、「キッズパークつるが」の開館により、更なる効果が期待される。</p>												